

# 4月度 座談会

拝読御書

しょうじ いち だいじ けつ みやく しょう  
生死一大事 血脈抄

# 御文

<sup>あいかま</sup>相構えて<sup>あいかま</sup>相構えて、<sup>ごうじょう</sup>強盛の<sup>だいしんりき</sup>大信力を

<sup>いた</sup>致して、<sup>なんみょうほうれんげきょうりんじゅうしょうねん</sup>南無妙法蓮華經臨終正念と<sup>きねん</sup>祈念し

<sup>たま</sup>給え。○<sup>しょうじいちだいじ</sup>生死一大事の<sup>けつみやく</sup>血脈、これより<sup>ほか</sup>外に

<sup>まった</sup>金く<sup>もと</sup>求むることなかれ。○<sup>ぼんのうそくぼだい</sup>煩惱即菩提・

<sup>しょうじそくねはん</sup>生死即涅槃とは、これなり。○<sup>しんじん</sup>信心の<sup>けつみやく</sup>血脈

なくんば、<sup>ほけきょう</sup>法華經を<sup>たも</sup>持つとも<sup>むやく</sup>無益なり。

# 通 解

よくよく心こころして強盛ごうじょうの大信力だいしんりきを  
起こして、南無妙法蓮華經なんみょうほうれんげきょう、臨終正念りんじゅうしょうねんと  
祈念きねんしなさい。生死しょうじ一大事いちだいじの血脈けつみやくを  
これよりほかに決けして求めもとてはならない。  
煩惱ぼんのう即菩提そくぼだい・生死しょうじ即涅槃そくねはんとは、  
このことである。信心しんじんの血脈けつみやくがなければ、  
法華經ほけきょうをたも持っても無益むえきである。

# はいどく 拝読のポイント①

## ★かくしん いの しん こうふくきょうがい きず 確信の祈りで真の幸福境涯を築こう

いかなるときも「ごうじょう強盛だいしんりきの大信力」をお起こすしせい姿勢が  
じゅうよう重要であることをしめ示されています。

「その身みのままかがやで輝いていける」、とともに  
「じぶん自分かは変わるひとことができる」「ひと人もか変えてい  
ける」、そして「みな皆いだいが偉大ほとけな仏となれる」とい  
う、きぼう希望げんせんの源泉しめを示しています。

はいどく  
拝読のポイント②

★「<sup>しんじん</sup>信心の<sup>けつみやく</sup>血脈」こそ<sup>にちれんぶつぽう</sup>日蓮<sup>こんかん</sup>仏法の<sup>こんかん</sup>根幹

この<sup>みょうほう</sup>妙法の<sup>くりき</sup>功力を<sup>はつき</sup>発揮させる<sup>かぎ</sup>鍵は、あくまでも  
<sup>わたし</sup>私たちが<sup>じしん</sup>自身の「<sup>しんじん</sup>信心」です。

<sup>おんし</sup>恩師・<sup>とだ</sup>戸田<sup>せんせい</sup>先生は<sup>かた</sup>語られました。

『<sup>こうせんるふ</sup>広宣流布に<sup>たたか</sup>戦う以外に<sup>しんじん</sup>信心はない。こう<sup>かくご</sup>覚悟  
することだ。』

『<sup>しんじん</sup>信心の<sup>けつみやく</sup>血脈』は、<sup>こうせんるふ</sup>広宣流布の<sup>いの</sup>祈りと<sup>かくだい</sup>拡大なく  
しては、ありえません。

りんじゅうしょうねん

“臨終正念”

ぼんのうそくぼだい しょうじそくねはん

“煩惱即菩提・生死即涅槃”

ってなんだろう？

りんじゅうしょうねん  
“臨終正念”とは、

し のぞ  
死に臨んでも心を乱さず、正しい念慮

おも かんが  
(思い、考え)、すなわち妙法を信ずる

しん いちねん  
信の一念を、揺るがずに貫くことです。

りんじゅう みょうほう しんじゅう むじょう  
臨終の時に、妙法を信受できた無上の

よろこ  
喜びをもって我が人生に悔いがないと

まんぞく ころろ りんじゅうしょうねん ぐたいてき  
満足できる心こそ「臨終正念」の具体的

すがた ほか  
な姿に他なりません。

ぼんのうそくぼだい

“煩惱即菩提”とは、

煩惱に覆われた苦悩の身が、そのまま菩提の智慧に輝く自在の身となる。この法理をいいます。

しょうじそくねはん

“生死即涅槃”とは、

御本尊を信じて南無妙法蓮華経と唱えていけば、生死によってもたらされる苦しみの生命を、仏の覚りによって、安穩な境涯（涅槃）に開き顕していけることを示しています。



# まとめ

「<sup>しんじん</sup>信心の<sup>けつみやく</sup>血脈」を<sup>しんみょう</sup>身命を<sup>おし</sup>惜し<sup>う</sup>まず<sup>つ</sup>受け継いで<sup>でき</sup>きたのが、<sup>そうか</sup>創価の<sup>してい</sup>師弟です。

したがって<sup>してい</sup>師弟<sup>ふに</sup>不二と<sup>いたいどうしん</sup>異体同心の<sup>そうか</sup>創価の<sup>しんじん</sup>信心に<sup>てっ</sup>徹して<sup>かぎ</sup>いく<sup>じゅ</sup>限り、<sup>しめい</sup>地涌の<sup>じんざい</sup>使命の<sup>ほうはい</sup>人材は<sup>ほうはい</sup>澎湃と<sup>ゆげん</sup>涌現するのです。

私たちは<sup>こうせんるふ</sup>広宣流布への<sup>つよ</sup>強き<sup>いの</sup>祈りを<sup>こんぽん</sup>根本に、<sup>じんせい</sup>人生の<sup>くなん</sup>あらゆる<sup>か</sup>苦難を<sup>こ</sup>勝ち<sup>ひとりひとり</sup>超え、<sup>ひとりひとり</sup>一人一人が<sup>くず</sup>崩れ<sup>こうふくきょうがい</sup>ざる<sup>きず</sup>幸福境涯を<sup>まい</sup>築いて<sup>まい</sup>参りましょう。